

奈良県感染症情報

平成 28 年 第 2 週(1 月 11 日～ 1 月 17 日)
 奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

今週の概要

- ◆ 小児科外来情報
- ◆ センターだより

インフルエンザの流行が始まっています

◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	感染性胃腸炎	5.47	(5.68)	↘	↘	↘	→
2	インフルエンザ	1.96	(1.17)	↑↑	↑↑	↑↑	↑
3	RS ウイルス感染症	1.41	(2.53)	↓	↓	↓	↓
4	A 群溶連菌咽頭炎	1.26	(1.68)	↘	↘	→	↗
5	伝染性紅斑	1.06	(1.12)	↗	↗	→	↑↑

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています。)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑↑**急増、**↑**増加、**↗**やや増加、**→**横ばい、**↘**やや減少、**↓**減少

◆ 県内概況 ◆

インフルエンザの報告数が今週も増えていきます。例年この時期から急増していくため、手洗い、うがいを今まで以上にしっかり行って下さい。先週お伝えした中和保健所管内での集団発生(保育園)は、インフルエンザ B 型によるものでした。小児科外来情報にもあるように北部、中部では主流は A 型、南部は B 型が流行しているようです。これから流行がさらに広がっていくと一度感染しても型の違いで再び感染する可能性があるため注意してください。

伝染性紅斑が先月から報告が多い状況にあります。患者の咳やくしゃみに含まれるウイルスを吸い込むことによる飛沫感染や接触感染が感染経路となります。子どもの体調の変化に注意し、手洗い、うがいを励行しましょう。

❖ 小児科外来情報 ❖

北部地区(矢追医院)

外来患者数は、あまり多くない。インフルエンザがそろそろ増加しそうです。子供にも感染者が出てきます。迅速検査は全て A 型です。ノロウイルスなどの感染性胃腸炎も増加してきました。症状は軽症の方が大半で、1 日程度の嘔吐と数日の下痢が続きます。保育園の乳幼児は RS ウイルス感染症の流行が続いています。保育園の幼児では流行性耳下腺炎が流行しています。小学校児では、伝染性紅斑の流行が続いています。

中部地区(岡本内科こどもクリニック)

外来数は急激な寒さとともに増加傾向。
 インフルエンザが徐々に増加してきたがまだ急増という程ではない。近隣幼稚園で A 型が流行中。当院でもほとんど A 型であるが幼稚園年長児で B 型が 2 例あった。
 高熱例の中にヘルパンギーナ様水疱の見える例が少しある。
 RS 気管支炎は本日も 5 ヶ月乳児の陽性例があり散発ながら持続。
 感染性胃腸炎が流行中。嘔吐が主でノロ様。ロタはない。
 伝染性紅斑の流行が続いている。その他水痘は少し。

南部地区(県立五條病院小児科)

ノロウイルス胃腸炎はやや減少してきた。嘔吐で始まり下痢の遷延するウイルス性腸炎もみられる。市内で B 型インフルエンザの流行がある。A 型インフルエンザは流行のきざしはまだない。

❖ 定点把握感染症報告状況 ❖

平成 28 年 第 2 週 1 月 11 日 ~ 17 日

保健所別報告数	奈良県		北部		中部		南部	
	奈良市	郡山	中和(東)	中和(西)	内吉野	吉野		
インフルエンザ定点数	54	11	16	11	11	2	3	
インフルエンザ	106	11	25	17	47	3	3	
	(1.96)	(1.00)	(1.56)	(1.55)	(4.27)	(1.50)	(1.00)	
小児科定点数	34	7	10	7	7	1	2	
RSウイルス感染症	48	5	10	14	16		3	
	(1.41)	(0.71)	(1.00)	(2.00)	(2.29)		(1.50)	
咽頭結膜熱	15	1	5	2	6		1	
	(0.44)	(0.14)	(0.50)	(0.29)	(0.86)		(0.50)	
A群溶連菌咽頭炎	43	9	11	8	11		4	
	(1.26)	(1.29)	(1.10)	(1.14)	(1.57)		(2.00)	
感染性胃腸炎	186	32	43	37	65	6	3	
	(5.47)	(4.57)	(4.30)	(5.29)	(9.29)	(6.00)	(1.50)	
水痘	9	3	2	2	1		1	
	(0.26)	(0.43)	(0.20)	(0.29)	(0.14)		(0.50)	
手足口病								
伝染性紅斑	36	7	20	7	1		1	
	(1.06)	(1.00)	(2.00)	(1.00)	(0.14)		(0.50)	
突発性発しん	20	3	8	5	4			
	(0.59)	(0.43)	(0.80)	(0.71)	(0.57)			
百日咳								
ヘルパンギーナ	1				1			
	(0.03)				(0.14)			
流行性耳下腺炎	29	6	17	3			3	
	(0.85)	(0.86)	(1.70)	(0.43)			(3.00)	
眼科定点数	9	1	3	2	2	0	1	
急性出血性結膜炎								
	1			1				
	(0.11)			(0.50)				
基幹定点数	6	1	2	1	1	1	0	
細菌性髄膜炎								
無菌性髄膜炎								
マイコプラズマ肺炎	14	2	11				1	
	(2.33)	(2.00)	(5.50)				(1.00)	
クラミジア肺炎								
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	3		3					
	(0.50)		(1.50)					

❖ 全数把握感染症報告状況 ❖ ()は保健所別内訳

1類感染症	
2類感染症	結核3件(奈良市1、中和2)
3類感染症	細菌性赤痢1件(中和1)
4類感染症	
5類感染症	侵襲性肺炎球菌感染症2件(中和2) 梅毒2件(郡山1、中和1) 侵襲性髄膜炎菌感染症1件(中和1) 破傷風2件(奈良市1、郡山1)

❖ 第2週のトピックス ❖

◆ ノロウイルス等検出状況

<http://www.nih.go.jp/niid/ia/id/2082-disease-based/na/norovirus/idsc/iasr-noro/5701-iasr-noro-150529.html>

※平成27年2月16日より桜井保健所と葛城保健所は統合され中和保健所となりました。旧桜井保健所分は中和(東)、旧葛城保健所分は中和(西)として集計しています。

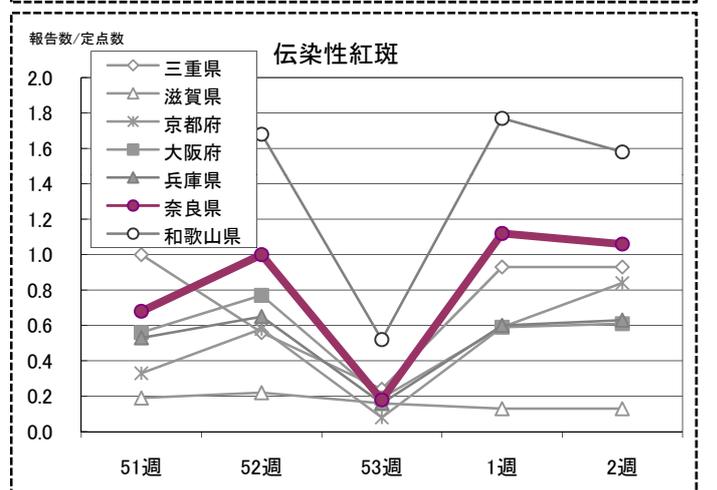
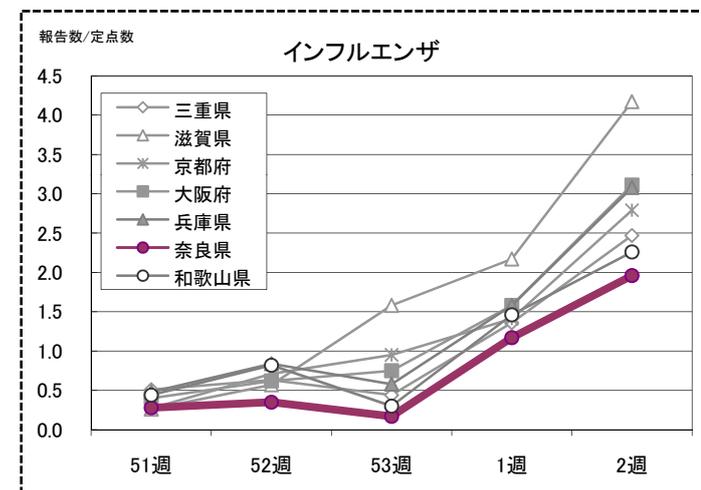
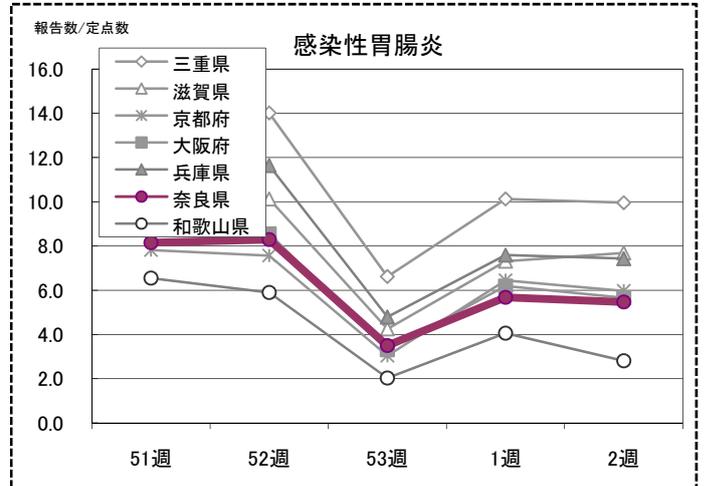
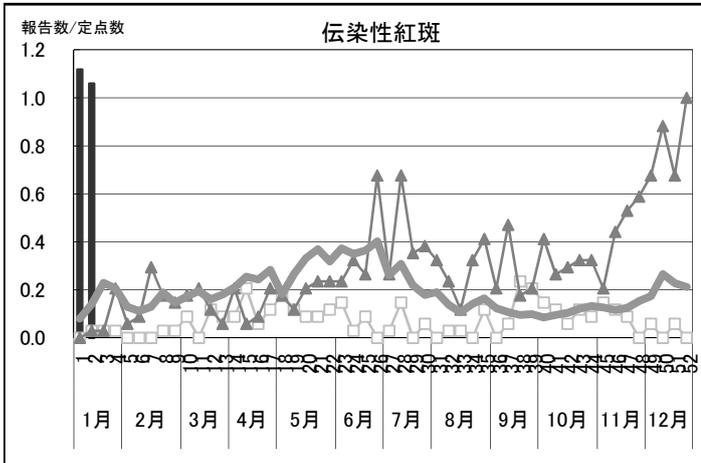
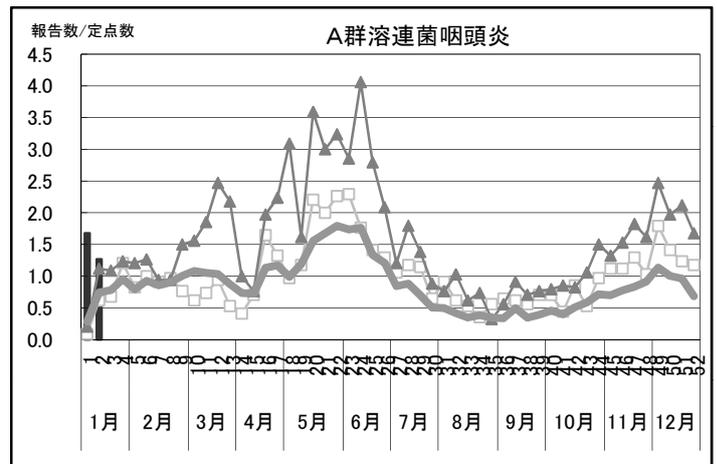
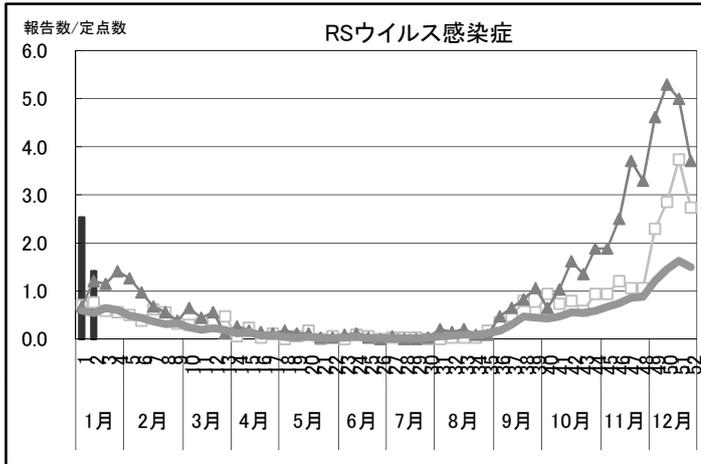
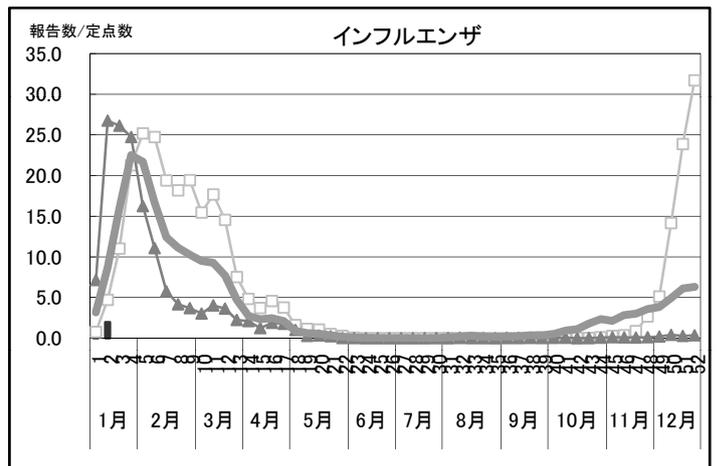
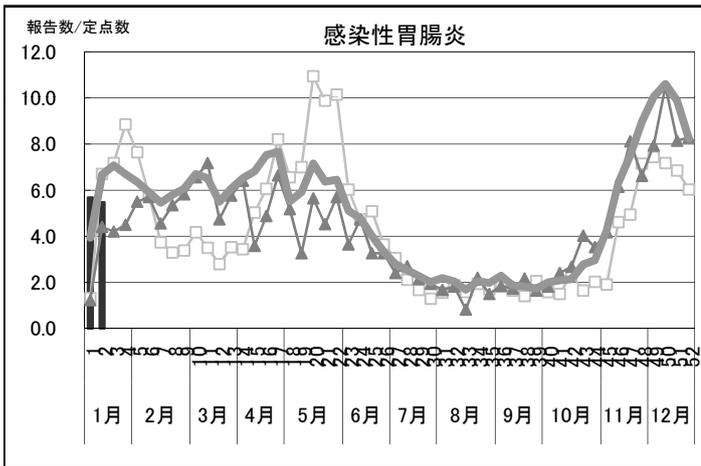
上段 : 報告数
(下段) : 定点当たり報告数 報告数÷定点数

年齢別報告数

年齢区分	年齢	0-5M	6-11M	1歳	2	3	4	5	6	7	8	9	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80-	合計	累計
インフルエンザ	男		2	3		5	3	4	3	4	4	2	5	3	1	4	3	3	4		1	54	84
	女				1	2	3	6	2	1	5		2	2	3	6	11	5	2		1	52	85
RSウイルス感染症	男	7	4	8	3		1															23	59
	女	2	6	11	4	2																	25
咽頭結膜熱	男			1	3	1																6	16
	女			3	1	1		3							2							9	14
A群溶連菌咽頭炎	男			1	2	3	2	5	3	3		1	2									22	54
	女			2	3	1	2	4	3	2	1	1			2							21	46
感染性胃腸炎	男	2	8	17	16	10	9	10	4	2	7	2	10	7	8							112	214
	女		5	9	9	7	7	8	3	4	1	3	5	3	10							74	165
水痘	男					1	1	1	2		2		1									7	18
	女					1	1															2	7
手足口病	男																						
	女																						
伝染性紅斑	男			1		4	2	3	3		3											16	33
	女				3	2	2	3	4	1	2	2	1									20	41
突発性発しん	男		5	6	2																	13	15
	女		1	5	1																	7	13
百日咳	男																						
	女																						3
ヘルパンギーナ	男				1																	1	1
	女																						
流行性耳下腺炎	男			1	1	2	2	4	2	1	3		1		1							17	34
	女			1	1	2	2	1	3	2	1		1									12	25
急性出血性結膜炎	男																						
	女																						
流行性角結膜炎	男																		1			1	3
	女																						2
細菌性髄膜炎	男																						1
	女																						
無菌性髄膜炎	男																						
	女																						
マイコプラズマ肺炎	男			4	1																	5	12
	女	1		6	2																	9	14
クラミジア肺炎	男																						
	女																						
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	男	1	2																			3	3
	女																						

❖注目疾患の動向❖ 全て定点当たり報告数

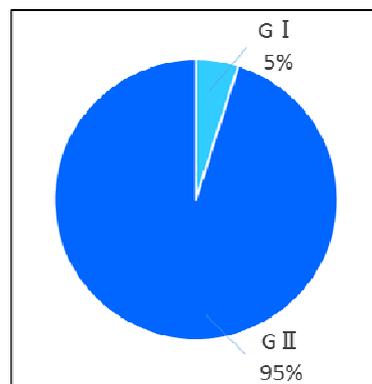
— H28 ▲ H27 □ H26 — 過去10年平均



センターだより

今シーズンのノロウイルス検出状況について

昨年 2014 年に、新規の遺伝子をもつノロウイルス GⅡ.17 が発見され、今シーズンは GⅡ.17 が 2006 年や 2012 年を上回る大きな流行を起こすのではないかと懸念されています。そのため、本県でこれまでに検出されたノロウイルスが、どのような型種なのかについて解析を進めてきましたので報告します。

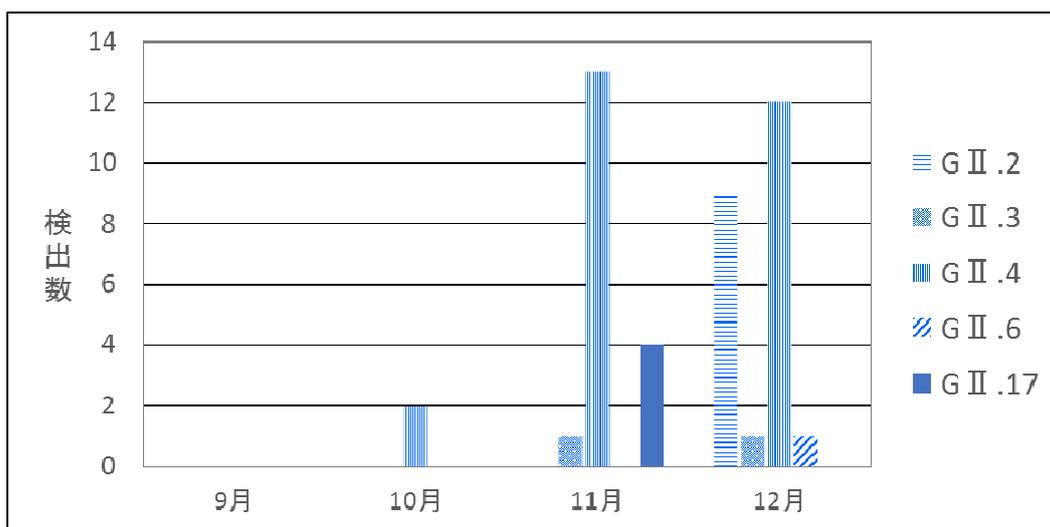


<検出状況と結果>

2015 年 9 月から 12 月までに感染症発生動向調査でノロウイルスを検出したもののうち、95%がノロウイルス GⅡでした。(右図)

GⅡは、更に詳しく RNA 依存性 RNA ポリメラーゼ領域の遺伝子解析を行い、これまでに結果が判明しているものは以下のようになりました。

*集団発生、散発事例いずれも 1 とカウント



GⅡ.17 は、11 月に散発事例で 0 歳児(郡山保健所管内)、2 歳児(奈良市保健所管内)、7 歳児(中和保健所管内)、8 歳児(中和保健所管内)から 4 例検出しています。この 4 例はいずれも川崎市で発見された GⅡ.17 変異株と類似のものです。

今シーズンもこれまで主流となってきた GⅡ.4 の検出数が最多です。現在のところ、心配されていたほどの GⅡ.17 による流行は起こっていませんが、今後の動向にも注意していく必要があります。

興味ある報告として、GⅡ.17 は十分なウイルス量があっても迅速キットへの感受性が低い傾向があるとされています。現在は、反応性を改良したキットも販売されていますが、本県の GⅡ.17 を検出した 4 例のうち 2 例は迅速キットでノロウイルス陰性とされたものであったため迅速結果の判定には注意が必要です。